

インド英語が世界をリードする日

初めてインド英語に接して戸惑う日本人は多い。

国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
国際連携アドバイザー (前 JST インド代表)

西川裕治

目の前が暗くなった瞬間

総合商社の新人は外国人顧客のアテンドが重要業務。船積み前検査で来日した検査官の機嫌を損ねると大問題。休日のアテンドは重要な仕事なのだ。ある日曜日、インド人検査官のアテンドで「はとバス」1日コースに行った。筆者は米国高校留学経験や英検1級の資格もあり、英語力には多少の自信があった。ところが、彼のインド英語は半分も理解できず大いに焦った。冷や汗をかきながら慣れた米語で観光案内し、相手も理解してくれたと思った。

午後米国観光客がバスに乗り込んできたので、彼らと米国の思い出話をした。それを隣で聞いていたインド人検査官が放った言葉は、「なんだ、Youは英語が話せたのか?」。一瞬、目の前が暗くなった。

ひるまず意見をぶつけ合う

インド英語の特徴は、①高速マシンガントーク、②癖のある発音とアクセント、③「アッチャ〜」など現地語とのごちゃ混ぜ、④教育、カーブなどでの差異、⑤ワザと大英帝国時代の難解表現をひけらかすエリート層、等々がある。

ところが、20年ぶりにインドに出張して驚いた。インド人の英語が非常に聞きやすくなっていた。インドでも英語力の有無で出世や収入に影響が出るので英語熱が盛んになっていた。

またインドには米国のコールセンターや欧米企業の事務所も増え、欧米大学に留学する若者も格段に増えた結果、彼らの英語力は飛躍的に英米化したのだ。とはいえ、初めてインド英語に接して大いに戸惑う日本人は多い。ある講演会でインド人質問者の英語が聞き取れず、何度も聞き返す米国人ノーベル賞受賞者もいたぐらいだから無理もない。

だが、そこで^{ひる}んではいけない。誤解を恐れずに言うと、「自分の言いたいことを確実に伝えることが最重要で、相手の主張を理解できなくても過度に気にする必要はない」。意見をぶつけ合うことから議論が始まるのだ。多くの日本人は相手が何を言うのかばかりを気にして自分の主張が疎かになり、「日本人は何を考えているのだ」「日本人には何を言ってもかまわない」ということにもなる。

むろん自分の主張には合理性や論理性が必要で、それがないとエリート層からは確実に馬鹿にされるが、それすら気付かない日本人を見かけるのが残念だ。

驚くべき言語ダイバーシティ

インドは多言語国家である。一説ではインドには少なくとも約30の異なった言語と2000以上もの方言がある。筆者はインド駐在の3年間で45以上の都市を訪問したが、「インドでは15マイルごとに方言が変わり、25マイルご